

合同技術部会ワークショップW3-4 専門技師と専門臨床工学技士のあり方 ～当院における認定制度の活用方法～

向畑恭子

医療法人沖縄徳洲会 南部徳洲会病院 臨床工学部

南部徳洲会病院は、第1種と第2種の高気圧酸素治療装置を保有する施設である。臨床工学部は、医療機器中央管理や人工呼吸管理、HBOなど主要5部門のほか、心臓カテーテルやSAS外来など、多岐にわたる業務を臨床工学技士(CE)17名が、ローテーションで行っており、当直も行っている。HBO対応可能者は13名で、当直者との連携によって、24時間365日対応が可能で、再圧治療も積極的に行っている。入職者の教育は、1年目に血液浄化センターやMEセンターの業務につき、HBO業務は2年目以降に従事するように計画しており、資格取得も教育スケジュールの一環として積極的に取り組んでいる。

HBO業務は、ただ治療を完了すればいいというのではなく、保守管理・患者教育・感染管理など様々で、運営においても中心的な役割を担うことから、幅広い知識や臨床経験が必要であり、入職後、HBO以外の業務につくことは、必要な経験であると考えている。閉ざされた空間に、1時間以上、患者を収容して行われる治療であることを念頭に置き、緊急時にも迅速に対応できるよう危険予測をも含めた総合的な知識と技術が必要である。そのために、実際に装置を操作しているCEが患者アセスメントを行うことが重要で、「何を知っておかなければならないのか」がわかれば、「何をアセスメントしなければならぬのか」も見えてくるのではないだろうか。資格取得は、そのポイントを的確に押さえる技術や知識を得ることができる方法の1つだと考えている。

国家試験合格後就職し、1年目は、血液浄化や医療機器管理など基本となる業務を習得し、他の業務経験も積みながらHBOに従事する施設が多いと思われる。その後資格取得に取り組むことになると思うが、これは、認定制度を利用して、知識や技術を習得し、自己研鑽に励み、いろいろな経験を積むことによって、個人あるいは自施設の「HBOの年輪」を強固なものに

していくことになるのではないだろうか。

高気圧酸素治療専門技師(専門技師)は、比較的経験の浅い医療従事者が、日常業務を行う上で必要な知識や技術、関係法規、安全基準等を習得し、学会や他施設の状況把握などを行う、「はじめの一步」ではないだろうか。そして、高気圧酸素治療専門臨床工学(専門臨床工学技士)は、知識・技術の習得、安全の向上が目的であると同時に、業務内容を適切に把握し、指導的立場で専門的治療の対応ができる知識や技術を修得したCEの育成も目的となっている。試験合格後、申請を行い認定となるが、日本臨床工学会への参加や単位取得が必須となっており、少なくとも5～6年間、自己研鑽を積んでいかなければ認定には至らない。今後は、多職種にも一目置かれる、苦勞してでも取得すべき資格として、その名称が語られるよう努力していかなければならないと考えている。

平成30年度の診療報酬改定により、収益性が確保されたことから、新規導入や再開、増設が聞かれるが、CEは、より一層、質が高く安全な治療を常に、当たり前前に提供しなければならない。教育認定施設としての条件になっている専門技師とは異なり、必ずしも専門臨床工学技士の取得は必要ないかもしれないが、食欲に興味ある分野を極めていくことも重要であり、情報収集や多職種連携、啓発活動をも含めたHBO運営における指導的立場として、専門臨床工学技士が位置づけられてもいいのではないだろうか。

専門臨床工学技士取得以降、学会ワークショップでの発表や日臨工検定委員会に参加するなど、全国のCEとの交流が増え、日々の業務における疑問や問題点の洗い出しから今後の展望に至るまで、密な意見交換が行えるようになったと思う。いずれにしろ資格取得が到達点になるのではなく、「HBO発展の礎」となるよう懇願するところである。